

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 3 題のうち, [Ⅰ] で古代・中世の政治, [Ⅱ] で近世の経済, [Ⅲ] で明治時代の対外政策に関して問われた。原始時代および現代からの出題はなかった。</p> <p>選択問題・語句記述問題, そして今年 of 同志社大学入試日本史において出題数の増加が目立つ正誤判定問題ともに標準的な知識を要求する問題が大半で, 漢字表記を含めて確実に正解することが重要になる問題構成であった。全体としては標準的な知識が問われたため, ケアレスミスをせずに, 着実に正解を重ねておきたい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ]	古代・中世の政治	<p>①『応仁記』より応仁の乱, ②北条義時追討の官宣旨, ③『日本紀略』より平安京遷都, ④『百鍊抄』より源義家の勢威, ⑤『吉田文書』より南北朝の合一, ⑥『玉葉』より源頼朝の挙兵, ⑦『小右記』より藤原道長の栄華に関する史料をもとに, それぞれの出来事について問われた。判断にやや細かい知識を要する問題もあったが, ほとんどが教科書の記載事項であり, 日頃から教科書の細部にまで目を通していれば高得点を目指せるだろう。</p> <p>設問エ. 「多賀城で略奪放火」という点から伊治咎麻呂と判断する。漢字も正しく書けるかどうか。</p> <p>設問カ. 後三年合戦図の説明に見られるが, 難。</p> <p>設問キ. 京都五山について創建者という点から問われるのは盲点だったかもしれない。設問 f. 北朝の天皇を問われていることに注意する。後龜山天皇は南北朝合一時の南朝の天皇。設問 g. 受験生が苦手とする選択肢であり, 差がつきやすい問題であった。設問コ. 史料⑦は望月の歌が載っていることから『小右記』だと判断し, その作者を答えればよい。</p>	標準

設問別講評			
〔Ⅱ〕	近世の経済	(1)で田沼意次の経済政策, (2)で寛政の改革, (3)で19世紀の社会・経済に関連して問われた。 設問 b. やや細かい知識が問われた。設問 e. 北前船は西廻り航路をとり, 船主は自身が買い積んだ物資を売って利益をあげた。設問 k. やや細かいが, 入試問題としては頻出である。迷ったであろう4の足利絹は下野国で生産された。設問 m. 「地廻り物」を問うているので, 江戸近郊ではない1の灘の酒を選べばよい。	標準
〔Ⅲ〕	明治時代の対外政策	(1)で明治時代初期の国境画定, (2)で陸奥宗光の回想録『蹇蹇録』より三国干渉, (3)で日清戦争後～ポーツマス条約を取りあげ, 明治時代の対外政策について問われた。 設問ア. 開拓使官有物払い下げ事件に関連して覚えていたかどうか。設問オ. 江華島事件を機に日朝修好条規を結んだ。設問キ. 三国干渉をした国を正しく選べばよい。設問ケ. 三国干渉では, 下関条約で日本に割譲されることになった台湾については取り扱われなかった。設問サ. 非常に細かい知識が問われた。歴史総合としても難しい。設問ス. この問題では, 下線部スの直前に「1902年に」とあることから第一次日英同盟協約に関して解答すればよいのだろうが, 第三次日英同盟協約では, アメリカが同盟の適用外になっている。	標準

合格のための学習法

同志社大学入試日本史でカギを握る記述問題においては, 正確な日本史の知識が要求される一方, 選択問題や正誤判定問題では細かい知識が求められることもある。以上のことから, 記述問題で漢字の書き取りを含めて落ち着いて取り組むことにより失点を極力減らし, 細かい知識を要求される問題での失点をカバーする必要がある。合格のためには, 教科書の本文だけでなく図表や脚注にも目を通したうえで, 用語集の解説の細部および図説資料集を精読し, 美術品の把握も含めて理解を深めることが大切である。最後に, 過去問と設問内容が重複する問題も見られるため, 過去問演習を重ねて本番に備えてほしい。過去問演習では, 苦手とする時代 (原始時代や近現代など) をテーマにした大問を抽出し, 集中して解くのも有効であろう。その際にも復習はきちんと行うこと。